

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	四郷グループホーム ばら		
所在地	三重県四日市市西日野町小溝野4014		
自己評価作成日	平成24年7月31日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2470200938-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 8 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲に緑が多く、春には桜も咲く静かな環境にあります。また、地域の在宅介護支援センター・デイサービス・ヘルパーステーション・訪問看護ステーション・サテライト特養が併設されており、様々な面で協力してもらっています。ケアの面では、ご利用者1人ひとりの特徴をつかみ、その方に合ったケアを行うように心がけ、沢山の笑顔を引き出すようにしています。又、外気浴や散歩と外に出る機会を多く持ったり、アクティビティ活動にも力を入れるよう努め、楽しく過ごせるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地内にサテライトと特養やデイサービスがあり、地域の高齢者介護の拠点になっている。それを活かし運営推進会議もグループホーム単独でなく、3事業所が合同で行なっているため、行政、地域共により情報交換につながっている。職員も青山里会という法人の中で異動はあるものの、10年以上高齢者介護に携わったベテラン達であり、職員同士はもちろん職員と利用者間も和気あいあいと和やかな雰囲気の中で、理念の「笑顔あふれる家」を実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人を尊重し、笑顔あふれる家」を理念とし、折りあるごとに小さな事でも話し合い、共有している。	理念の中の「笑顔」を大切にすることとを、仕事や昼食時のミニミーティング等で話し合ったり、職員全員がチェックするノートに書いたりして、共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの施設との交流があり、散歩の途中に寄られたり、グループホームでの音楽療法と一緒に参加して頂いている。	グループホームでは月に4回音楽療法が開催されている。それを地域に開放しており、地域からは2つの障がい者団体の参加がある。また近くの中学生の職業体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの中学校の職業体験を受け入れる事で、生徒さんに認知症についての理解と支援の方法を知ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の様子や行事といった近況報告等を行い、会議の参加者から質問・意見をいただいたり、グループホームからの協力をお願いしている。	同一敷地内のサテライト特養とデイサービスと合同でほぼ2ヶ月に1回運営委員会を開催しており、利用者の近況報告等行なっている。	3事業所合同開催なので、グループホームの持ち時間は短くなるが、地域の自治会の皆さん等の出席もあり、いろんな意見をいただけるよい機会と思う。ぜひ議事録は行政はじめ出席メンバーに配布されるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接連携はとれていないが、緊急情報・研修の案内を頂き、分からない事があれば、電話にて連絡している。	市役所との連携は、法人本部がすることになっており、グループホームが単独で連携することは少ないが、疑問や問題が生じた時は、直接担当者とやり取りしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな事が拘束になるのか常に話をし、拘束しないケアを行っている。玄関の施錠については、開錠時間を長くするようにしている。	一人で出て行こうとする利用者がおられるので、玄関は職員の手薄になる時間帯のみ施錠しているが、利用者の出掛け先を確認する等をして、施錠をなくする試みも考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どんな事が虐待になるのか常に話をし、虐待のないケアを行っている。又、ご利用者の様子観察を行い、連絡を密にして異常の発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している利用者がみえることから制度について学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書を渡し読んでもらい、契約時の説明の際に分からない箇所や不安な所について、質問頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、今まで利用がない。家族の方には直接、困られていることはないか、来られた折りに聞くようにしている。	面会に来られた家族とは積極的に情報交換をしているが、やはり面と向かうと苦情など言ってもらえないことが多い。また2ヶ月毎に発行していた「たより」も現在止まっている。	利用者家族とのコミュニケーションは非常に大切であり、面会時はもとより面会に来られない家族とも電話やアンケート等を利用し積極的な情報交換をお願いしたい。また「たより」の継続も期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や日常的にも積極的に意見を出してももらい、その意見を責任者に伝えている。	職員間はもとより組織の上下関係もよく、気軽にものが言える雰囲気になっており、日常の仕事の中で提案や意見交換が行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	度々、責任者がグループホームに来て職員の話聞いて把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修が毎月のように行われており、参加は自由であるが、殆どの職員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合った同業者の方に、ケアのあり方、職場でのあり方について、積極的に話しかける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査で本人の思いや状態の把握をし、利用者によっては、お試しショートから使ってもらい、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や実態調査で家族が今まででしてみえた苦労等を共感をもって聞き、安心して何でも話をしてもらえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方のケアマネさんと連携をとることでその方にあったサービスに繋げる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は嫁であり、娘であり、孫でありときには友人として接し、一緒に洗濯干し、掃除、料理等をしてその中で多くの事を学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来て、散髪や食事介助をして頂いたり、家族と食事の出掛けられたりと利用者と共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の三分の一は自宅に外泊される方、家族と共に生家に行かれる方があり、外泊・外出を進めている。	小学校の文化祭や敬老会等で、利用者が地域に出かけることが多い。また生家や馴染みの店に出かける人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く暮らせる様にリビングの席を考えたり、話の成り行きを見守り、時には介入して話がうまくいくように気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所されても様子を伺いに行ったり、行事に来てもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所されるまでの生活を良く知り家族と共に環境を整えたり、なじみの仲になることで希望・意向も言ってもらえるようにしている。	お風呂などで利用者と1対1の時に、ポロッと昔話が出たり、今はどう？と本音を聞くことが出来、聞き出したことは日誌等に記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族さんに本人の生活歴を書いてもらっている。実態調査では、ケアマネさんや、サービス利用時のスタッフからも話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の体調・様子を個人記録に記録し、毎朝日勤者が話し合いを持ち状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は、利用者の希望・家族の意向をよく聞きスタッフの情報も得て本人本位のプランになるよう作成している。	部屋担当が本人や家族の意向を踏まえた計画を作り、モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しをしているが、計画は職員の目線ではなく、本人の気持ちを考えた「本人の目線」で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に1日の様子を書きスタッフ皆が読んで話しあっている。食事摂取・排便・バイタルの必要な方は毎日記録して介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のみえない方は、近くのスーパー・薬局と一緒に買い物に行ったり、美容院の付き添いを行っている。また体調の悪い方の受診対応も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人から音楽療法に月3・4回来てもらったり、同敷地内の特養の四郷食堂で開催されるアクティビティに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの掛かり付け医で受診してもらっている。又、相談したいときは家族の了解を得て掛かり付け医に相談し、適切な医療が受けられる様にしている。	本人家族の希望を大切にしており、入居前からのかかり付け医の方が多く、家族が受診に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に訪問看護ステーションがあり、相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、家族や病院関係者と連絡を取り合っており、協力病院と関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、意向を聞き、住み慣れたグループホームで可能な限り暮らして頂けるように説明を行っている。又、生活が困難になれば、介護施設の紹介を行っている。	同一法人内に特養や老健、病院もあるが、本人・家族の希望で、医療処置寸前のギリギリのところまでグループホームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修に参加して、学んでいる。が、更に実践力を付けたいと職員は思っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	度々通報訓練・避難訓練を同敷地内の施設と共に行っている。地域での訓練にも参加するようにしている。	火事や地震災害に対する訓練をほぼ毎月行ってきたが、この4月から中断している。	国は地震規模の見直しもしている。いつ発生してもおかしくない状況であり、訓練の中断は危険である。ぜひ継続をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「一人一人を尊重する」という理念を常にもって接し、声掛けには注意を払っている。又、気づいた事があれば、話し合っている。	利用者のプライドに配慮し、誇りを傷つけないようみんなの前で言う言葉には気をつけている。みんなにはわからないように話しかけたり、パッドなどは見えないように隠して持つ等配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	過ごし方・就寝等その人に合わせた声掛けを行い、自己決定できるようにしたり、寄り添って思いや希望を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アクティビティにお誘いの声掛けはするが、その方の好きなように生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ない方には整容に気をつけ、服も汚れたら着替えてもらうように声掛けをしている。又おしゃれな方は化粧をして楽しんでみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を聞いて買い物に行き、好き嫌いのある方にはメニューを変えて対応している。又、食事準備・盛り付け・片付けも一緒にしている。	一般家庭と同じように、冷蔵庫の中に残っている物を見てメニューを考えている。それも利用者と相談して決めており、材料が不足のときは一緒に買物に出かけているし、調理、配膳、盛り付け等利用者も手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、外気浴中にジュースを用意したり、かき氷をしたりして楽しんで頂きながら摂取できるよう工夫している。又、食事があまり取れない方には栄養補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きに誘い、その人に応じて見守り、声掛け、一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ・尿とりパットを使用しないようその方に合った時間に声掛けし、トイレ誘導をしている。又、オムツの方もトイレで排便してもらえるように、お腹マッサージを行っている。	排泄の失敗もなく、オムツの人もいない。一人ひとりに声掛けしており、利用者全員がトイレでの排泄である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、水分・運動不足になっていないか注意し、バナナ・プルーン・ヨーグルトを取り入れたり、野菜中心のおかずをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている方は毎日入浴してもらい、嫌がられる方には声掛けの時間を置いたり、言葉掛けの工夫を行っている。	毎日でも入れるようにしており、入れる人から入るので順番も決まっていない。ゆず湯や菖蒲湯等楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝される方、しない方それぞれ好きなようにされている。夜も時間を決めていて、眠くなったら休む方とそれぞれである。気持ちよく眠れるように個々に応じてエアコンを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出された処方箋は個人ファイルに綴じいつでも見れるようにし、変更時は業務日誌、スタッフノートに記入し、皆が把握できるようにしている。又、変更時には様子の変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯干し・炊事・花の水やりなど個々に合った役割をもっている。又、縫い物・ランプ・坊主めくり・散歩と一人ひとりに合った楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけている。家族の協力を得て近くの丘陵公園に遠足に行ったりしている。	比較的元気な方が多く、散歩コースは事業所の周りにいくつかあり、その日の気分で遠回りしたりしている。また花や木のたくさんある公園が近くにあり、出かけることが多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はしておらず、本人が自分に応じた額を持たれている。買い物では、好きな物をお金を払って買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要求があれば、かけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日利用者と掃除をして快適に過ごせるように支援している。又、季節に応じた作品を利用者と作り、飾って季節感を出すようにしている。	大きなテレビを真ん中に置いた食堂兼居間がみんなが集まる場所である。その壁面は普段なら利用者の力作が飾られているのだが、丁度季節の変わり目で、夏物は取り外され、現在秋ものを製作中である。また別にアクティビティと呼ばれるコーナーがあり、洗濯物たみや少人数の話の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	アクティビティルームがあり、ここでは皆とは違ったテレビ番組を観たい方や、3・4人で話に花を咲かせている姿が見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望で家具や家電製品等、何でも持ち込めるようになっている。今まで使用されていた物を持ってきてもらい安心して過ごせるようにしている。	ベット、洗面台、クローゼットが備え付けられており、それ以外は利用者の好みのものが持ち込まれている。整理ダンスやテレビ、壁飾りのある部屋もあれば、ダンスも飾りも何もない部屋もあり、利用者各人の好みの部屋作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂はわかりやすいように大きく表示している。		